

新型コロナウイルスワクチン接種に関する 都民の意識について

(東京 i C D C リスクコミュニケーションチームによる「都民 1 万人アンケート調査結果」から)

東京iCDCリスクコミュニケーションチームによる都民1万人アンケート調査

➤ 東京都では、都民が新型コロナに対してどのような意識を持ち、どのように行動しているのか、その実態を把握するため、新型コロナへの対応等についての都民アンケート調査を、2021年2月から毎年実施

■ 調査方法：インターネット調査

■ 調査対象：東京都に住所を有する20代から70代までの者

■ サンプル方法およびサンプル数：

- ・ 性別・年齢構成・居住地を東京都の人口比率に合わせた割当抽出
- ・ **約10,000サンプル**

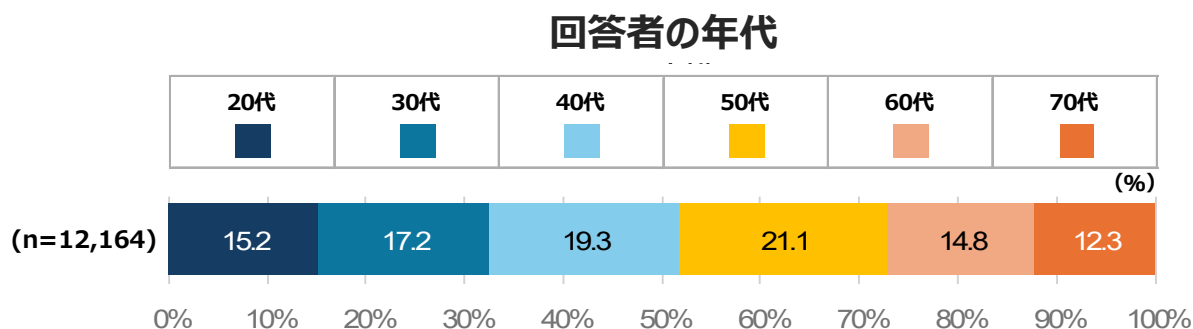
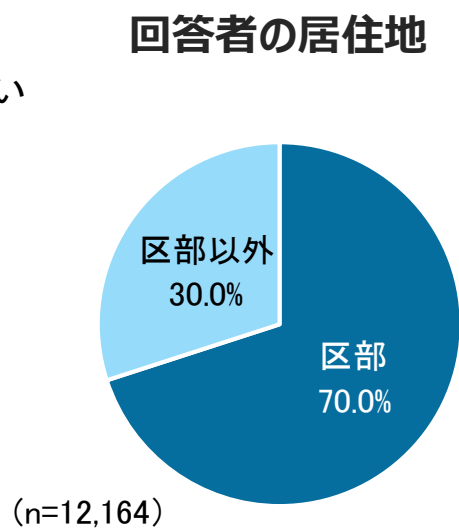
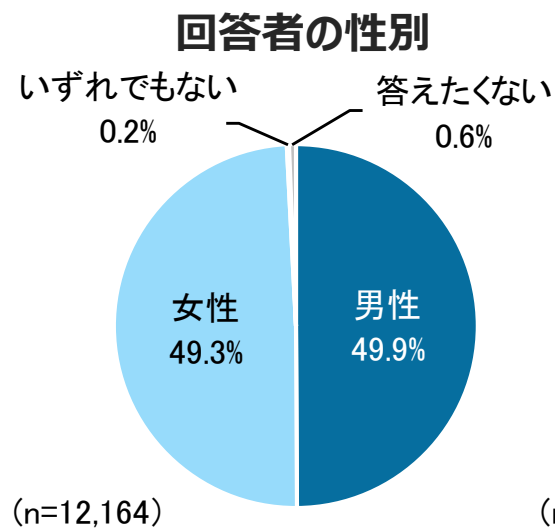
■ 調査期間：毎年2月～3月

■ 調査項目：

- 新型コロナの経験・後遺症
- 新型コロナに関する気持ち
- 現在の感染症対策
- 薬剤耐性・抗菌薬・抗生物質
- 感染症に関する情報について
- 災害発生時の感染症対策
- 新たなパンデミックへの考え・備え など

有効回収票についての基本属性（2025年2月実施）

有効回答票n=12,164



回答者の職業 (単位 %)

管理的職業従事者	7.3
専門的・技術的職業従事者	12.3
事務従事者	17.3
販売従事者	4.2
サービス職業従事者	11.5
保安職業従事者	0.7
農林漁業従事者	0.1
生産工程従事者	1.5
輸送・機械運転従事者	1.0
建設・採掘従事者	1.0
運搬・清掃・包装等従事者	1.9
分類不能の職業	3.5
専業主婦・主夫	12.6
学生	2.6
無職	15.0
答えたくない	7.5
全体	100.0

※本調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計をしても必ずしも100とはならない。

東京iCDCリスクコミュニケーションチームによる
都民1万人アンケート調査結果（2025年2月実施）より
ワクチン接種に関する回答について以下の分類で示す

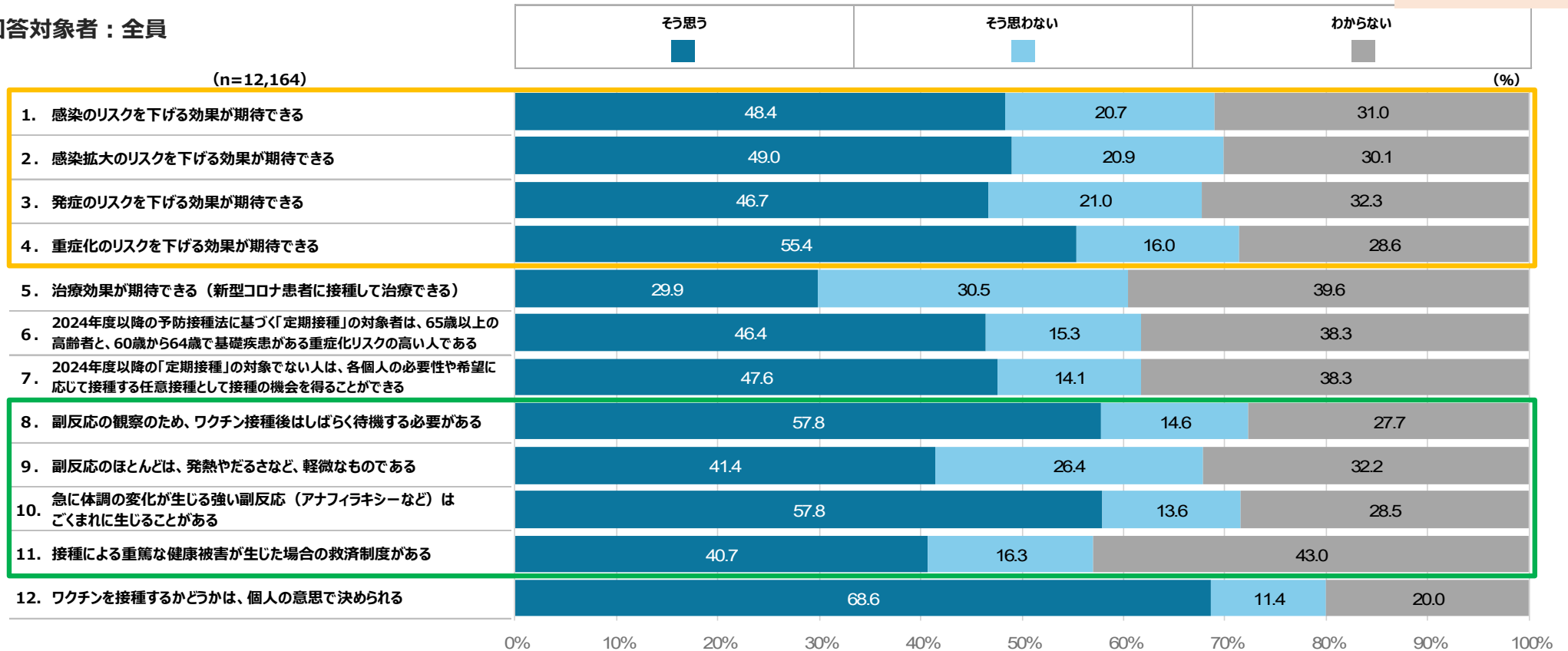
- ・黄枠：ワクチンのイメージに関する回答
- ・赤枠：接種費用の自己負担に関する回答
- ・緑枠：接種後の副反応等に関する回答

Q5：新型コロナのワクチンについての考え

・黄枠：イメージ
 ・赤枠：自己負担
 ・緑枠：副反応

回答対象者：全員

(n=12,164)

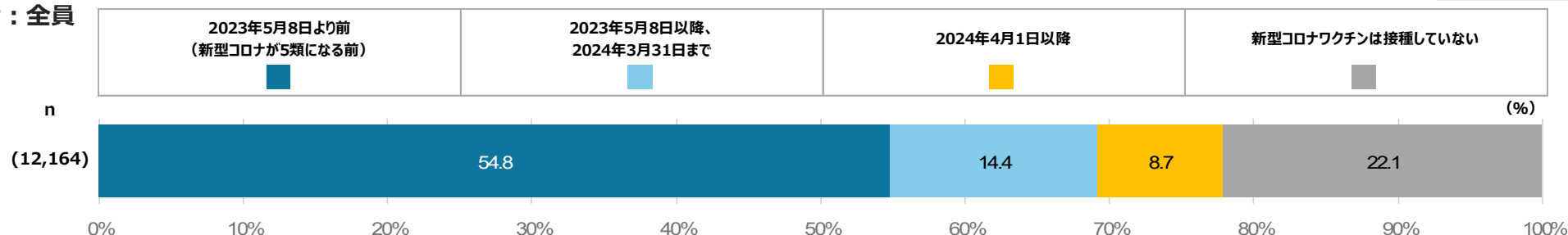


◆「**そう思う**」は“**ワクチンを接種するかどうかは、個人の意思で決められる**”（68.6%）で7割近く、“**副反応の観察のため、ワクチン接種後はしばらく待機する必要がある**”、“**急に体調の変化が生じる強い副反応（アナフィラキシーなど）はごくまれに生じることがある**”（ともに57.8%）で6割近くと高くなっている。一方、「**そう思わない**」は“**治療効果が期待できる（新型コロナ患者に接種して治療できる）**”（30.5%）で約3割と高くなっている。

Q6：新型コロナワクチンの接種時期（直近）

- ・黄枠：イメージ
- ・赤枠：自己負担
- ・緑枠：副反応

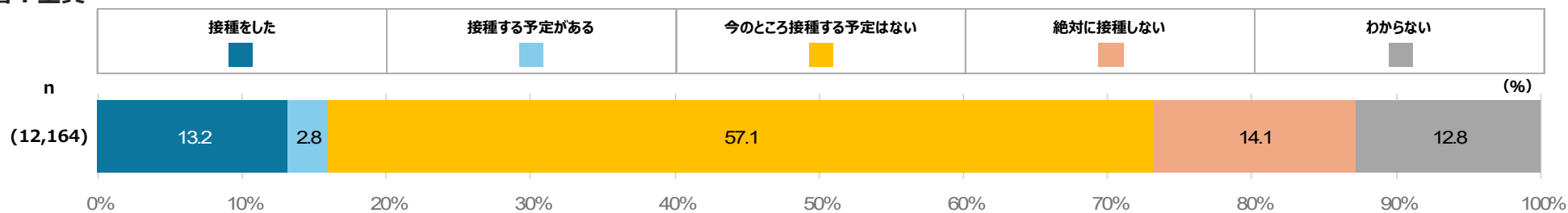
回答対象者：全員



◆「2023年5月8日より前（新型コロナが5類になる前）」（54.8%）が5割半ばで最も高くなっている。一方、「新型コロナワクチンは接種していない」（22.1%）は2割程度にとどまっている。

Q7：2024年秋以降の新型コロナワクチンの接種有無および接種意向

回答対象者：全員



◆「接種をした」（13.2%）は1割程度にとどまっている。一方、「今のところ接種する予定はない」（57.1%）は6割近くと高くなっている。

VRSデータによるワクチン接種実績（参考）

- ・黄枠：イメージ
- ・赤枠：自己負担
- ・緑枠：副反応

VRSデータによる都民のワクチン接種状況（3月30日分まで）

都民の接種回数と接種率

	全人口		うち高齢者		うち小児		うち乳幼児	
	接種回数	接種率	接種回数	接種率	接種回数	接種率	接種回数	接種率
総接種回数	45,415,372	-	17,066,144	-	476,911	-	90,828	-
1回目接種	11,280,868	81.5%	2,968,471	94.6%	185,063	24.5%	31,304	6.4%
2回目接種	11,203,614	80.9%	2,961,857	94.4%	177,091	23.4%	29,183	6.0%
3回目接種	9,357,539	67.6%	2,868,608	91.4%	78,023	10.3%	22,813	4.7%
4回目接種以上	13,573,351	-	8,267,208	-	36,734	-	7,528	-

令和5年秋開始接種の接種状況

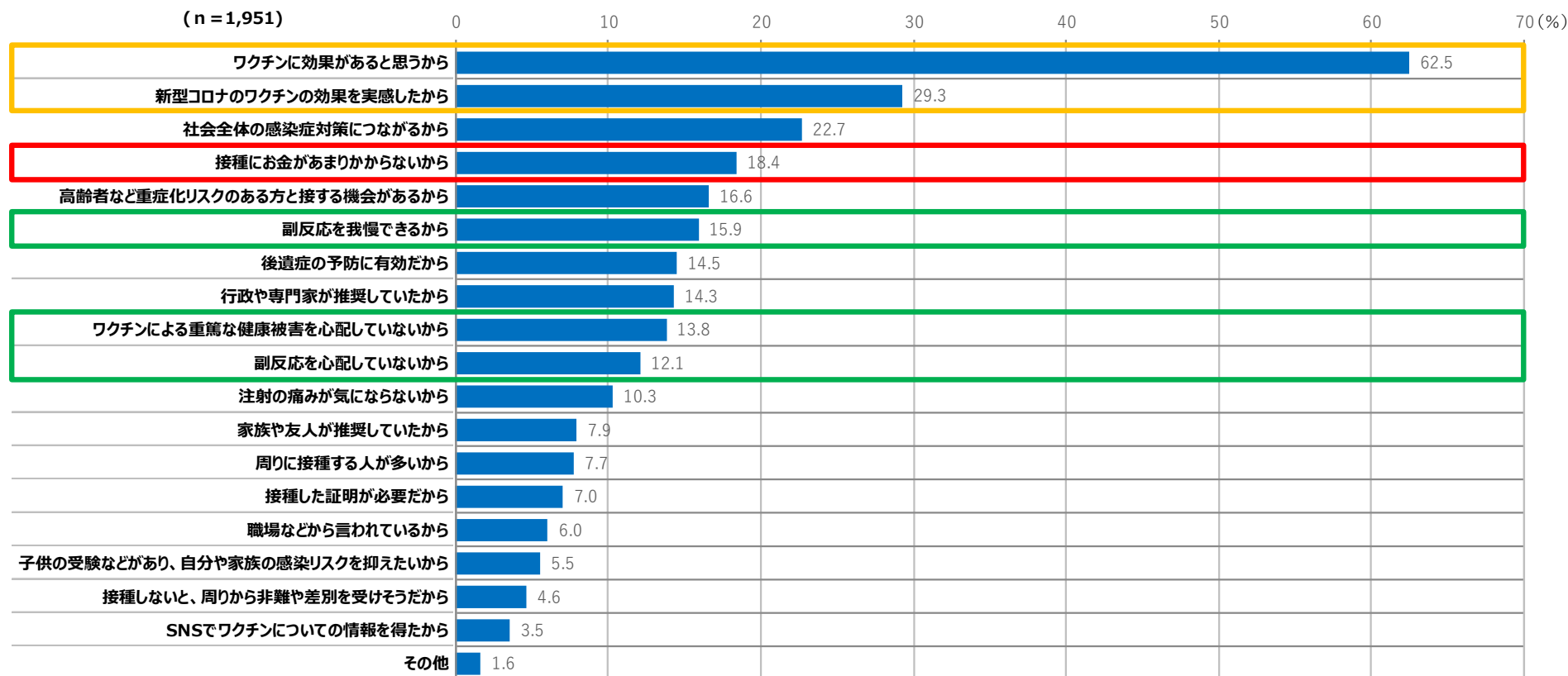
都民の接種率

	都民の接種率	母数	【参考】全国の接種率
全人口に対する接種率	20.1%	13,841,568	22.7%
高齢者人口（65歳以上）に対する接種率	54.4%	3,137,840	53.7%

Q7-a : 【接種した/する予定がある】新型コロナワクチンを接種した・する理由

- ・黄枠 : イメージ
- ・赤枠 : 自己負担
- ・緑枠 : 副反応

回答対象者 : Q7で「新型コロナのワクチン」を「接種をした」「接種する予定がある」と回答した人

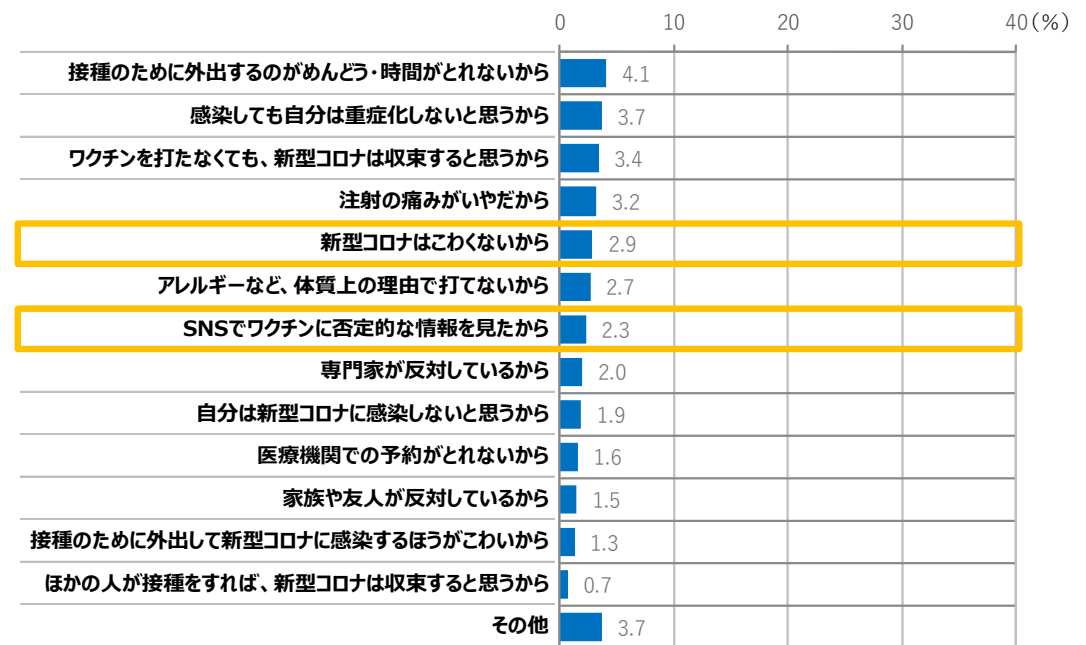
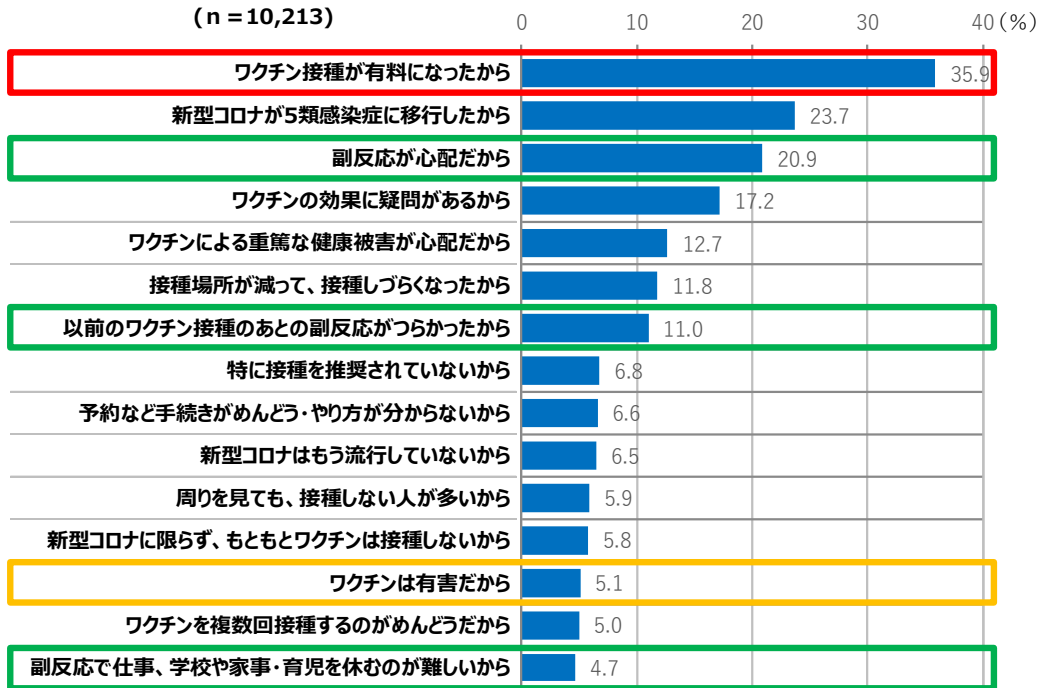


- ◆ 「ワクチンに効果があると思うから」(62.5%) が6割を超え突出して高く、次いで「新型コロナのワクチンの効果を実感したから」(29.3%)、「社会全体の感染症対策につながるから」(22.7%)、「接種にお金がかからないから」(18.4%)などの川順になっている。

Q7-b : 【今のところ接種する予定はない／絶対に接種しない／わからない】新型コロナワクチンを接種しない理由

回答対象者：Q7で「新型コロナのワクチン」を「今のところ接種する予定はない」「絶対に接種しない」「わからない」と回答した人

・黄枠：イメージ
 ・赤枠：自己負担
 ・緑枠：副反応

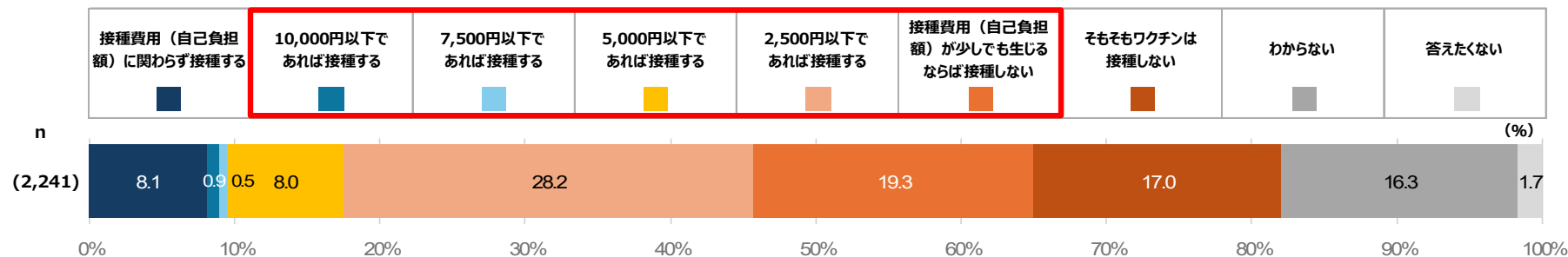


◆ 「ワクチン接種が有料になったから」(35.9%) が3割半ばで最も高く、次いで「新型コロナが5類感染症に移行したから」(23.7%)、「副反応が心配だから」(20.9%)、「ワクチンの効果に疑問があるから」(17.2%)などの順になっている。

Q8-a : 【65歳以上】65歳以上の方のワクチン接種意向

- ・黄枠：イメージ
- ・赤枠：自己負担
- ・緑枠：副反応

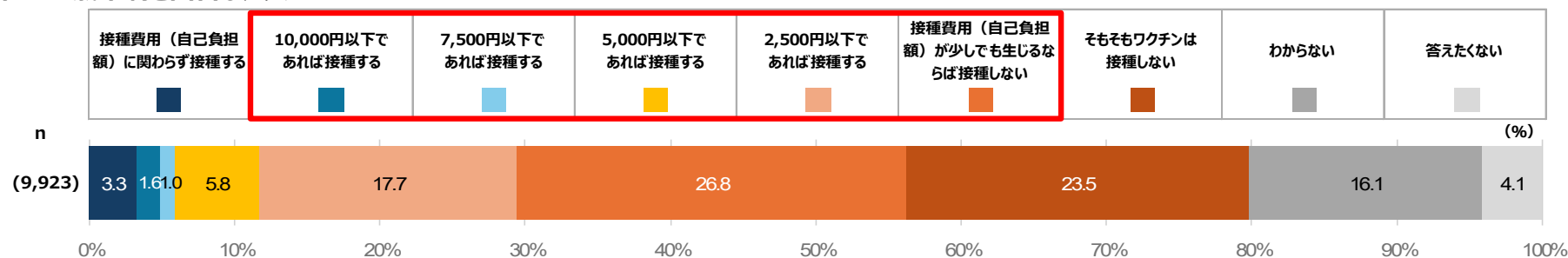
回答対象者：65歳以上と回答した人



◆ 「2,500円以下であれば接種する」(28.2%) が3割近くで最も高く、次いで「接種費用（自己負担額）が少しでも生じるならば接種しない」(19.3%)、「そもそもワクチンは接種しない」(17.0%)などの順となっている。

Q8-b : 【65歳未満】65歳未満の方のワクチン接種意向

回答対象者：65歳未満と回答した人



◆ 「接種費用（自己負担額）が少しでも生じるならば接種しない」(26.8%) が3割近くで最も高く、次いで「そもそもワクチンは接種しない」(23.5%)、「2,500円以下であれば接種する」(17.7%)などの順となっている。

Q15：新型コロナに関して思うこと（自由記述）

・黄枠：イメージ
・赤枠：自己負担
・緑枠：副反応

感染したくない／感染対策・予防が必要／
後遺症が怖い

「感染したくないのでできる事はやろうと思ってる。」（60代男性）
「1度かかって、とても辛い思いをしたからなるべくかからないように感染対策はちゃんとしたと思う。」（20代女性）
「まだはっきりしたことがわからないのでいつどこでパンデミックになるかわからないし、後遺症も怖いのでかからないように予防を続けてゆく。」（70代女性）など

収束(終息)していない／
早く収束(終息)してほしい／まだまだ怖い

「感染が終息するまでにはまだ数年はかかる可能性は高いとおもう。」（40代男性）
「いつになったら収束するのか、早くなくなって欲しいと思う。」（50代女性）
「まだまだ怖い感染症なのに、周囲がまったく対策をしておらず、いつうつされるかとヒヤヒヤしている。」（40代女性）など

マスク等の感染対策をしていない人が多くて不安

「マスクをしていなかったり咳等もハンカチ等で抑える事もしない感染対策をしていない人が多過ぎて怖い。」（30代女性）
「周囲のみんながあまりに関心になっていないことが不安。」（70代男性）など

治療薬が出来てほしい／特効薬が欲しい

「新型コロナに効果がある薬を簡単に低価で購入できるようになってら怖さかなくなると思う。」（40代女性）
「早く簡単な治療薬を開発して欲しい。コロナにかかっても普通にお医者さんに行くと薬をもらい治せるようにしてほしい。」（50代男性）など

ワクチンの効果や安全性に疑問／
ワクチンは接種したくない

「ワクチンを打っていてもコロナにかかり、症状も重たかったのでワクチン自体の効果がもう信じられない。」（30代女性）

「ワクチンの副反応が怖く、打つ必要性を感じない。」（40代男性）など

情報が少ない／情報が欲しい

「以前より感染情報が少なくなっていますが、感染者はまだたくさんいるので情報は必要だと思います。注意喚起のためにも。」（60代女性）
「今世界ではほとんど話題になっていないようですが、いったいどうなっているのか実態を知りたいです。」（70代男性）など

インフルエンザと同じ／普通の風邪

「インフルエンザや風邪も同じでコロナも流行って大騒ぎになる前から準備していればいつ患ってしまっても大丈夫だと思っている。」（40代女性）
「コロナはもはや普通の風邪と同じ扱いで良いと思う。」（20代男性）など

もう収束(終息)した／もう気にしていない／
関心が薄れた

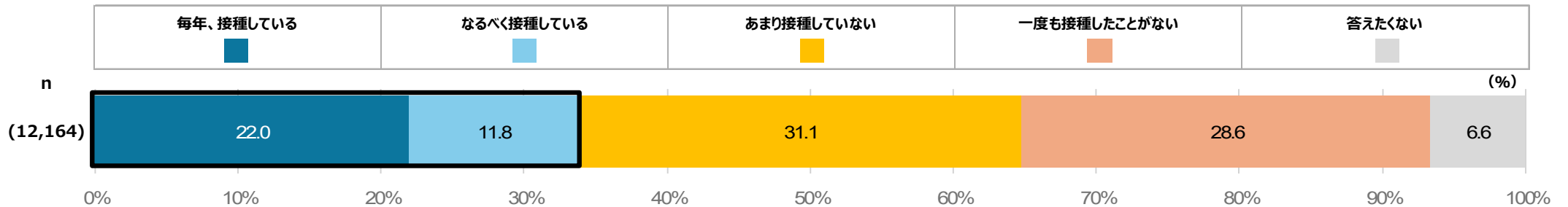
「既に終息したものと認識している。もう新型という言葉は適切ではないと思う。」（40代男性）
「インフルと同等の扱いにはなった気がするためあまり気にしていない。」（30代女性）
「新型コロナの報道の方が少なくなったためあまりコロナに対して関心を向けることが無くなった。」（50代男性）など

- ◆ まだ収束していないとの意識を持つ人が多く、マスク着用や手洗いなど感染対策が必要と考える人も多い。
- ◆ 治療薬を望む声が多いが、**ワクチンに関しては効果や安全性に疑問を持っている等、否定的な意見も少なくない。**
- ◆ 一方で、新型コロナはインフルエンザや風邪と同じと考える人もおり、もう気にしない人や関心が薄れた人も一定数みられた。

Q17：季節性インフルエンザのワクチンの接種有無

- ・黄枠：イメージ
- ・赤枠：自己負担
- ・緑枠：副反応

回答対象者：全員



◆「毎年、接種している」（22.0%）が2割を超えている。一方、「一度も接種したことがない」（28.6%）は3割近くとなっている。

Q37-a : 新型コロナやその他の感染症に関連して他人から偏見や差別を受けた経験がある人の具体的な内容（自由記述）

ワクチン未接種による差別や偏見、 または強要

「ワクチンを受けないことで白い目で見られひどく傷ついた。受ける受けないは自由だったはずなのにひどい差別を受けて働くことが困難となった。」（30代女性）
 「ワクチンを打たないことによる、理由を聞かれたり、懐疑的な目で見られたこと。」（30代男性）
 「ワクチンを受けると周りがるさかった。」（40代女性） など

マスク着用の強制/ マスクを着用していないことに対する非難

「職場で上司からマスクの着用を強制された。」（60代男性）
 「マスクを付けていない時に、信じられないと非難された。」（50代女性） など

職場での差別や偏見

「コロナが流行っている時に旅行割を活用して旅行に行ったら職場の上司から文句を言われた。汚い物扱いされた。」（30代女性）
 「コロナを疑われて職場に来るなど言われた。」（40代男性）
 「職場で新型コロナ感染して家族に感染させてしまい「おまえのせいだ」と言われた。」（40代女性） など

地方での差別や偏見

「体調の良い時に地方の実家に帰省した際、親戚、近所さんから近づくとコロナに感染すると距離をとられたこと。」（30代女性）
 「田舎から上京して働いているため、帰省した際に「コロナがうつるのではないか」というようなことを言われた。」（20代女性）
 「地方への出張で、来ないでほしいと言われた。」（50代男性） など

職業による差別や偏見

「医療従事者であるため、感染者のように見られた。」（40代男性）
 「感染病棟で働いていた時に、近寄るな的な態度をされた。」（50代女性）
 「接客業だったという事もあり、会いたくないと言われた。」（40代女性） など

・黄枠：イメージ
 ・赤枠：自己負担
 ・緑枠：副反応

新型コロナに感染したことによる差別や偏見

「コロナウイルスに感染した際、他人に移した可能性があり、多くの人から避けられるようになった。」（20代男性）
 「コロナにかかったら予防してなかったのか感染症対策が出来ていないと非難された。」（50代女性）
 「コロナになって体調が良くなって陰性となったのに友達に2.3ヶ月避けられてちょっと悲しくなった。」（20代男性） など

新型コロナに感染していないのに 受けた差別や偏見

「咳をするとコロナに感染しているかのような目で見られた。」（20代男性）
 「感染者と少しでも触れ合った事により、距離を取られ触れ合わないでほしいと避けられる事がある。」（60代女性）
 「子供のクラスで感染者が出てクラスが自宅待機になった時、私も感染してるのでは？ととりあえず自宅に帰された。」（50代女性） など

- ◆ ワクチン接種をしない、マスクをしないことに対する偏見や非難を受けるだけでなく、マスク、ワクチン接種の強要などもある。
- ◆ 職場で理不尽な扱いを受けたり、都市部から地方への帰省や訪問を拒まれたりするケースもある。
- ◆ 新型コロナに感染したことによる差別だけでなく、職業などあらゆる理由で感染者と同等とみなされ偏見にさらされるという状況。

東京iCDC専門家からのご意見

1. かかりつけ医の役割と重要性

- ✓ アンケート結果は、**現場の感覚と合致**している
- ✓ 特に高齢者は定期受診のタイミングで、**信頼する主治医から「受けたほうがいい」と言われると接種行動に移りやすい**
- ✓ **外来患者全員にしっかり説明することでほぼ100%の接種率を達成**している例がある
- ✓ WHOの「予防接種の行動的・社会的促進要因フレームワーク」においても、「**社会的プロセス（信頼できる医療従事者からの推奨）**」は大きな要因である

2. ターゲット別の課題と戦略

- ✓ **現役世代（大人）**
 - 小児は小児科医のアプローチが効くが、大人は**かかりつけ医を持たない場合もあり、アプローチが難しい**
 - 仕事への影響（副反応による休暇）を気にする層への対策も課題**
- ✓ **若年層・子供**
 - 学校教育等を通じて継続的にワクチンの重要性を伝えることが必要**

3. 費用負担

- ✓ WHOのフレームワークにおける「実践上の問題（コスト・アクセス）」の観点からも、**費用は接種に対するモチベーションを下げ**る大きな要因である
- ✓ **単価設定と接種行動は密接に関わっていると認識している**
- ✓ **自己負担額が高い自治体ほど接種率が低下する傾向がデータとして出ている**

4. ワクチン接種の信頼性

- ✓ かつて感染症の脅威を肌で感じていた世代と異なり、今の若い世代はワクチンで制圧された世界しか知らず、**副反応のリスクばかりに目が向きがち**である
- ✓ **麻疹風疹ワクチンの接種率が95%を下回るなど、定期接種にも悪影響が出ている**
- ✓ WHOの3Cモデルのうち「Complacency（自己満足・油断）」の影響が大きく、「**打たなくても大丈夫」「ただの風邪**」というように**認識が偏っている**
- ✓ 「第5波で何万人の命を救った」といった**ワクチンの成果（エビデンス）が十分に伝わっていない**
- ✓ インパクトの強い偽情報に対し、**客観的な数字やグラフを用いた正しい情報をXやLINE等で地道に発信していく必要がある**

 **自治体、アカデミア、企業が連携して正しい情報を発信していくことが重要**